

☆この評価結果は、グループホームが自主的なサービス改善を行う努力を支援するための評価であり、調査当日のホームの状況や提出された書類に基づいて評価したものです。

(別紙4)

[認知症対応型共同生活介護用]

# 1. 評価結果概要表

作成日 平成20年7月9日

## 【評価実施概要】

事業所番号	890100027		
法人名	医療法人 社団 愛優会		
事業所名	グループホーム 水戸		
所在地	水戸市笠原町1614-9 (電話) 029-305-3077		
評価機関名	社会福祉法人茨城県社会福祉協議会		
所在地	水戸市千波町1918 茨城県総合福祉会館内		
訪問調査日	平成19年12月11日	評価確定日	平成20年7月9日

【情報提供票より】(平成19年11月20日事業所記入)

### (1) 組織概要

開設年月日	平成19年2月1日		
ユニット数	2 ユニット	利用定員数計	18 人
職員数	16 人	常勤	13 人, 非常勤 3 人, 常勤換算 7.3人

### (2) 建物概要

建物構造	木造	造り
	2階建ての	～ 1・2階部分

### (3) 利用料金等(介護保険自己負担分を除く)

家賃(平均月額)	54,000 円	その他の経費(月額)	円
敷金	無		
保証金の有無 (入居一時金含む)	有 (280,000 円)	有りの場合 償却の有無	有
食材料費	朝食	260 円	昼食 390 円
	夕食	650 円	おやつ 円
	または1日当たり		1,300 円

### (4) 利用者の概要(平成19年11月20日現在)

利用者人数	18 名	男性	4 名	女性	9 名
要介護1	3	要介護2	3		
要介護3	4	要介護4	3		
要介護5	要支援2				
年齢	平均 80,6 歳	最低	58 歳	最高	91 歳

### (5) 協力医療機関

協力医療機関名	水戸共立診療所 笠原歯科
---------	--------------

## 【外部評価で確認されたこの事業所の特徴】

管理者や職員は、「いつもの顔・いつもの手・いつもの心で接する事。付かず離れずの思いやりで生活のお手伝いをする事」の理念を共有するとともに、利用者が理念にそった生活が送れるよう支援している。  
特に心を大切にをモットーに、明るい雰囲気を目指している。

## 【重点項目への取組状況】

重点項目①	前回評価での主な改善課題とその後の取組、改善状況(関連項目:外部4) 初回調査につき該当なし。
	今回の自己評価に対する取り組み状況(関連項目:外部4) 職員に評価の意義やねらいなど、周知を図る取り組みが十分ではないため、全職員で話し合いの機会を設けるなど評価に取り組み、日々のケアに活かすことが望まれる。
重点項目②	運営推進会議の主な討議内容及びそれを活かした取り組み(関連項目:外部4, 5, 6) 行政・地域の方・利用者とその家族等を委員とする運営推進会議を開催するとともに、ホームの概要説明と運営推進会議の役割などを話し合い、認知症対応の事業所の理解を得られるよう努力している。
重点項目③	家族の意見、苦情、不安への対応方法・運営への反映(関連項目:外部7, 8) 毎月の請求書と一緒に個々の介護記録や写真を送付し、利用者の暮らしぶりを報告している。 重要事項説明書にホームの苦情担当者を明示し、運営推進会議に家族の参加を促すことで、意見・要望が出しやすい環境としているほか、玄関前に御意見箱を設置している。 面会時にはホームでの様子を報告しながら相談に応じている。
重点項目④	日常生活における地域との連携(関連項目:外部3) ホームのイベントに近隣の方を招待したり、隣接する学校の学園祭や敬老会に参加しているが、自治会に入会するなど地域と更なる交流が望まれる。

☆この評価結果は、グループホームが自主的なサービス改善を行う努力を支援するための評価であり、調査当日のホームの状況や提出された書類に基づいて評価したものです。

## 2. 評価結果（詳細）

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
<b>I. 理念に基づく運営</b>					
<b>1. 理念と共有</b>					
1	1	○地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	利用者が地域の中で今までと変わらない生活を送れるよう、付かず離れずの思いやりで生活のお手伝いをする理念を掲げている。		
2	2	○理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる	朝礼の時や運営推進会議等で理念を確認し、共有を図るとともに、日常的に実践出来るよう努めている。		
<b>2. 地域との支えあい</b>					
3	5	○地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている	ホームのイベントに近隣の方を招待したり、隣接する学校の学園祭や敬老会に参加するほか、散歩の際、部活動の生徒に声掛けを行なうなど、地域との交流に努めている。	○	近隣との交流を深める意味で自治会に加入し、更なる交流が望まれる。
<b>3. 理念を実践するための制度の理解と活用</b>					
4	7	○評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	運営者や管理者は地域密着型のホームの意義や外部評価を理解し、より良いホームづくりを目指しているが、職員全員がその意義を理解するには至っていない。	○	評価の意義を運営者・管理者・職員で話し合いながら全員で評価に取り組み、日々のケアに活かすことが望まれる。

☆この評価結果は、グループホームが自主的なサービス改善を行う努力を支援するための評価であり、調査当日のホームの状況や提出された書類に基づいて評価したものです。

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
5	8	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	行政・地域の方・利用者とその家族等を委員とする運営推進会議を開催するとともに意見交換を行い、アドバイスをサービス向上に活かしている。		
6	9	○市町村との連携 事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる	利用者の中に地域包括支援センター扱いの方が入居しているため、常に市役所を訪問し連携をとっている。		
<b>4. 理念を実践するための体制</b>					
7	14	○家族等への報告 事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている	毎月の請求書とともに、利用者の介護記録や写真を送付し、日々の暮らしぶりを報告している。		
8	15	○運営に関する家族等意見の反映 家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	重要事項説明書にホームの苦情担当者を明示し、運営推進会議に家族の参加を促すことで意見・要望が出しやすい環境としている。 また、玄関前に御意見箱を設置するとともに、家族の面会時にはホームでの暮らしの様子を報告しながら相談に応じている。		
9	18	○職員の異動等による影響への配慮 運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている	ケアの偏りをなくし、職員にホーム全体の理解を図るため、1階と2階の職員の異動を行っているが、利用者には事前に知らせて理解を得られるよう話し、異動のダメージをなくす努力をしている。		

☆この評価結果は、グループホームが自主的なサービス改善を行う努力を支援するための評価であり、調査当日のホームの状況や提出された書類に基づいて評価したものです。

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
<b>5. 人材の育成と支援</b>					
10	19	○職員を育てる取り組み 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	設置法人本部からの指示で外部研修に職員を交代で受講させるとともに、毎月の勉強会で職員全員に伝達研修を行っている。		
11	20	○同業者との交流を通じた向上 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	設置法人間の交流はあるが、他の同業者と交流するには至っていない。	○	他の事業者と交流を図ることにより職員の悩みなどの解消や気づきを貰える機会となるので、実現に向けた働きかけが望まれる。
<b>Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>					
<b>1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応</b>					
12	26	○馴染みながらのサービス利用 本人が安心して、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気に徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している	利用するにあたり本人や家族にホーム全体を見てもらい、理解して貰った上で入所している。		
<b>2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援</b>					
13	27	○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながら喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている	何をすることがその方にとって一番よいのかを見つけ出し、利用者のできることや持っている力を引き出すよう心がけ、お互いに支えあいながら毎日楽しい生活を送れるよう支援している。		

☆この評価結果は、グループホームが自主的なサービス改善を行う努力を支援するための評価であり、調査当日のホームの状況や提出された書類に基づいて評価したものです。

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
<b>Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>					
<b>1. 一人ひとりの把握</b>					
14	33	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	家族や入居前の担当介護支援専門員等から情報を取り入れたり、その方の生活歴や日々の会話を積み重ねながら利用者の思いや意向を把握している。		
<b>2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し</b>					
15	36	○チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している	生活歴や本人の意向を把握しているが、介護計画に活かすには至っていない。	○	利用者の病状や状態を考慮して、支援の方法やアイデアを担当者会議で意見交換し、利用者一人ひとりに対応した介護計画を作成することが望まれる。
16	37	○現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している	介護計画を定期的・随時に見直すまでには至っていない。	○	介護計画の期間や利用者の状態変化に応じてアセスメントや職員間で意見交換を行うなど、介護計画を見直すことが望まれる。
<b>3. 多機能性を活かした柔軟な支援</b>					
17	39	○事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々々の要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	多機能性を活かした柔軟な対応をするまでに至っていない。	○	ホームの更なる発展に向けて、地域のニーズを把握することに努めるとともに、地域に根ざした事業を展開できるよう検討することを提案する。

☆この評価結果は、グループホームが自主的なサービス改善を行う努力を支援するための評価であり、調査当日のホームの状況や提出された書類に基づいて評価したものです。


外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
<b>4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働</b>					
18	43	○かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	利用者が協力医療機関のほか、入所前のかかりつけ医に受診できるよう支援している。 夜間緊急対応の医療機関と提携している。		
19	47	○重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している	利用時、お互い良い関係で看取れるよう家族・本人の希望を聞いている。 また、看取りを希望する方には承諾書を取り交わしている。		
<b>IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</b>					
<b>1. その人らしい暮らしの支援</b>					
<b>(1)一人ひとりの尊重</b>					
20	50	○プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない	管理者は、職員が利用者と接する際に誇りやプライバシーを損ねない対応や言葉かけを行えるよう注意している。 また、個人情報などの取り扱いにも注意している。		
21	52	○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	職員は利用者の日常の様子を把握し、一人ひとりの生活の希望や思いを大切に、希望にそって支援をしている。		

☆この評価結果は、グループホームが自主的なサービス改善を行う努力を支援するための評価であり、調査当日のホームの状況や提出された書類に基づいて評価したものです。

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
<b>(2) その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援</b>					
22	54	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員が一緒に準備や食事、片付けをしている	利用者から食べたい物を聞き、出来るだけ旬の物を取り入れるようにしている。 一日の栄養のバランスを考えた献立をたてるなど、おいしく食べられるよう配慮している。 食事の準備や後片付けなど、利用者と一緒に取り組んでいる。		
23	57	○入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	利用者一人ひとりの入浴習慣を把握するとともに、回数にこだわらず希望の時間に入浴できるよう支援している。		
<b>(3) その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援</b>					
24	59	○役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	毎日の生活の中で、ゴミ集め・ゴミ捨て・掃除・草取り・花壇作りなど、利用者にあった役割や楽しみごとができるよう支援している。		
25	61	○日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	買い物・散歩・庭の掃除・ゴミ捨て・ドライブなど、毎日外出できるよう支援している。		
<b>(4) 安心と安全を支える支援</b>					
26	66	○鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	利用者の状況により鍵をかけることもあるが、ホームが閉鎖的にならないようチャイムなどで対応し鍵をかけないようにしている。		

☆この評価結果は、グループホームが自主的なサービス改善を行う努力を支援するための評価であり、調査当日のホームの状況や提出された書類に基づいて評価したものです。

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
27	71	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	災害訓練は実施していないが、近日中に実施の予定である。	○	訓練を実施するにあたり、消防署や近隣の方に協力を依頼するなど、災害発生に対する訓練の取り組みを期待する。
<b>(5)その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援</b>					
28	77	○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	水分摂取量は確認しているが、食事のバランスやカロリーなどを把握するには至っていない。	○	利用者の栄養状態をチェックするためにも地域の保健師や、栄養士に毎日の献立に対するアドバイスを受けることを期待する。
<b>2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり</b>					
<b>(1)居心地のよい環境づくり</b>					
29	81	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	家庭の生活を基本とし、広すぎない廊下・窓から見える四季折々の学校の風景・団欒しやすい環境など、利用者が安心して生活できる空間づくりを支援している。		
30	83	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	利用者が使い慣れた筆筒・衣装ケース・茶碗・箸等、馴染みの物を持ち込み安心して生活できるよう支援している。		

※  は、重点項目。

※ WAMNETに公開する際には、本様式のほか、事業所から提出された自己評価票（様式1）を添付すること。